平成 21 年度大学教育情報化研究講習会～基礎講習コース～

班名：B班　　グループ名：パルパル

テーマ　：　既存システム連携強化システムの方策

1. 目　的

高等教育機関に既に導入されているシステムの現状を踏まえ、「教育・研究支援」、「学生支援」を円滑に行うための方策として、「既存システムを連携強化する仕組み」の検討・提案を行うとともに、この方策が、教職員・学生の両者にとって情報システムの有益な活用に結び付くことを目的とする。

2. 課題認識

高等教育機関において、情報インフラはすでに整備されており、教育・研究、学生支援のためのシステムが稼動している。しかしながら、その利用面に視点をおくと、多くの教職員・学生は稼動しているシステムを有益に活用していないのが現状である。膨大な設備費用を投入し導入した「教育・研究支援のためのシステム」、「学生のキャンパスライフを支援するためのシステム」が如何に有益に活用されるかが問題であり、両者が情報システムに関して共通理解の上で有益に活用されていかなければならない。

3. 討議内容

3.1　現状について

高等教育機関には、「成績システム」、「出欠システム」、「シラバスシステム」などの教務システム、「学生カルテ」など学生情報に関する学生システム、学生コミュニティーのためのポータルサイトなど多方面で情報システムが導入されている。しかしながら、教職員・学生はシステムの利用方法やシステムの存在を知らずシステムの有益な活用ができていない。更には、部署間、学部間において統一したシステムが導入されておらず情報の共有がなされず、結果として他部署との連携不足に陥っている状況にある。

【 事 例 : 学籍異動 】

通常学生異動に関する担当窓口は学生課（係）であるが、ある大学では、退学、除籍を担当する部署が教務と学生に分かれており、両課（係）以外の部署も係りを持っている。これらの部署間では、システムの違い及び権限の関係上から学生の現状を随時把握することができない状況にある。その結果として、部署間での連携不足が生じ、業務に支障を生じることがある。

3.2　分析について

既存システムの活用現状について分析を行うと、以下のように考えられる。

・教職員間において Excel などアプリケーションスキルに違いがあるように、教職員・学生において情報スキルにムラがある。
・部署間において連携が図れておらず情報の共有ができていない。
・アナログ思考、拒絶反応などシステムに対する価値観の違いによって活用ができていない。

【 事 例 : 出欠管理 】

ある大学では、学生証（IC カード）を卓上の読取機器にかざしておくだけで出欠確認が行え、学生一人ひとりの出欠管理が瞬時にシステムに反映されるという先進的なシステムが導入されているが、多くの大学では講義を終えた後に学生一人ひとりの出欠状況を入力するシステムを導入しているのが一般的である。後者のシステムが導入されている場合では、システムに対する共通理解の上で活用されなければならないが、利用方法及び価値観の違いによって、必ずしも活用されていない状況にある。

４．提案内容

これらの問題を解決するためには、教職員・学生が共通理解の上で、コミュニケーションを密にしながら情報の活用を推進していかなければならないが、具体的な解決方法としては次の三つの提案を行う。

【 解決方法１：教員 】

ファカルティ・ディベロップメント(FD) の一つの取組として取り込む。ＦＤは、教員の授業内容や教育方法

などの改善・向上を目的とした組織的な取組であるため、「教育・研究を支援するためのシステム」の説明及び講習会を実施し、情報システムに対する共通理解とともにシステムの活用を促す。

【 解決方法２：職員】

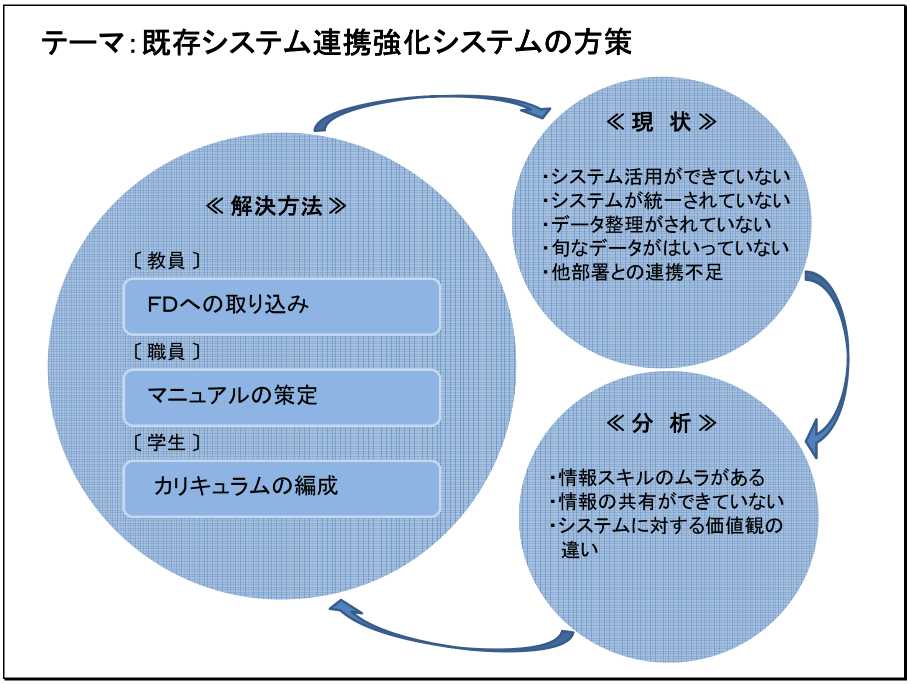
職員間で情報システムの利用スキル、情報の共有化を図るためにマニュアルの策定を行う。マニュアルについてはすでに策定されているが、システムの構築時に策定されたものをそのまま使用しており、職員の情報スキルの較差が生じている現状においては適さない場合がある。したがって、情報スキルの状況に応じたマニュアルを策定し、情報システムに対して共通理解のもと活用する。なお、策定したマニュアルについては、全職員が随時閲覧できるようにする。

【 解決方法３：学生】

カリキュラムの編成を行う。在学中に利用するシステムについては、ガイダンス等において説明が行われているが、説明されているにも係らず利用方法を理解していないなど学生にとって不利益を生じている場合が多く見られる。したがって、情報システムの利用方法を含めたコンピュータリテラシーやコンピュータスキルに関連する事項をカリキュラムとして編成する。（必修科目）

これを通じて、情報に対する理解を深めるとともに情報システムを有益に活用するスキルが身に付けられる。

５．まとめ

教育・研究支援、学生支援を行うために新たに情報システムを構築することはできるが、既存システムの活用現状を踏まえ、「如何に既存システムを使いこなすか」という点を考慮することで従来の支援体制の改善が図れると思う。大学を取り巻く環境は年々厳しい状況にあるが、上記の解決方法等の支援方法を計画・実行・評価・改善することによって、教育の更なる発展に結び付くことであろう。今後とも、大学職員として教育・研究支援、学生支援のための方策を検討しながら職責を果たしていきたい。

≪ 資　料 ≫